

鳥海ダムだより



2004.10
第9号

国土交通省東北地方整備局鳥海ダム調査事務所



まちの歴史とともに 歩む河川

大内町長 佐々木 秀 綱

四季を鮮やかに伝える自然豊かな本町の、中央を堂々と流れる河川「芋川」。春のウグイ投網漁、新年の寒鯉追込漁など芋川の河川漁業は継承され今に息づいています。また河川がもたらす恩恵に感謝を捧げる「芋川まつり」は住民に毎夏の思い出をつくり、河川に親しむ仲間の会「芋川に楽しむ会」が愛護活動を続け、そして小中学生は生物観察に取り組んでいます。芋川は、穏やかな表情をたたえ、母なる川として慈しみ、住民の拠り所の一つであるといえます。



ただし豪雨などの天災に際し突如猛威をふるい、田畑などの財産を侵し、住民を脅かす暴れ川に豹変します。

また干ばつなどの際には、住民の願いをよそに黙して語らず、ただ水位のみが減少の一途を



たどります。

芋川は、本町の歴史とともに歩んできた盟友であり、時に決して負けられない宿敵であるともいえる存在かもしれません。

そして同じように、鳥海山を源とする子吉川もまた、地域の歩みとともに歴史を積み重ねてきたものと思います。

そのような中で、水害の対策・解消、生活・産業用水の常時の容量確保は、河川をもつ地域にとって普遍の命題であることをいうまでもなく、鳥海山のすそ野に広がる本荘市由利郡にとって、共通の課題であるといえるのではないのでしょうか。

治水および利水環境を整え、安全で安心して生活できるまちづくりに向けて、鳥海ダムの早期建設を強く願わずにはられません。

子吉川源流調査 (7/23)

鳥海ダム建設予定地における実地調査の一環として、当所調査設計課の企画による子吉川の源流調査（鳥海山）が行われました。

4合目付近の大清水から登り始めた当所職員及び案内役の鳥海町役場職員の一行は、大倉、タッチラ坂、屏風岩を経由して、目的地である8合目の唐獅子平を目指しました。

当日は雲一つない好天に恵まれて気温も高く、登り始めて数分もすると、全身から吹き出した汗がシャツを濡らし始めました。携帯した飲料水もあっという間に減っていきます。



一行は歩き慣れない山道に苦戦しながらも、眼下に広がる壮大な景色と冷たい湧き水に元気付けられ、7合目の屏風岩付近で源流調査を行った後、どうにか最終目的地の唐獅子平に到着することが出来ました。

8合目付近には、この季節でも雪渓がまだ多く残っており、山頂から吹く冷たくて心地良い風が疲れた身体を癒してくれました。

今回の源流調査はここで終了となりましたが、いつか機会があれば頂上を目指してみたいと思います。



ウォーキングスタディ・イン鳥海(9/2)

鳥海ダム予定地周辺にて、今年度の「ウォーキングスタディ・イン鳥海」を開催しました。

この行事は、子吉川の上流域と下流域で暮らす小学生が交流を深めながら、自然に親しみ郷土への理解を深めてもらうことを目的として、平成8年度より実施しているものです。

当日は雨の降り出しそうな空模様で肌寒い気温でしたが、参加した鳥海町立笹子小学校と本荘市立子吉小学校の6年生58名は、法体の滝園地から玉田溪谷沿いに洞合の大甕穴までを元気よく歩いて自然学習を体験しました。



講師を務めていただいた木谷豊四先生（元本荘北中学校長）のわかりやすい説明と、普段あまり経験する機会のない自然と触れ合いながらの学習に子供達は夢中になり、二校混合の班分けによる緊張も次第にほぐれ、両校の生徒が仲良く話す姿が見られました。

午後からは模型を使った鳥海ダムの説明や鳥海山の噴火実験、当日の学習成果を試すクイズなどを実施し、最後に記念写真を撮影して解散しました。

後日、感想文を書いてもらいましたが、「他校の生徒と仲良くなれてよかった」、「ダムの事がよくわかった」といった感想が多く、子供達に楽しんで学習してもらえたことが分かり、主催者側もホッとしました。



子吉川フェア (7/18)

本荘ボートプラザ・アクアパルにおいて、今年で9回目となる「子吉川フェア」が開催されました。

石脇東保育園児による「ヤートセ踊り」で幕を開けた子吉川フェアは、「標語・絵画コンクール」の表彰式やパネルコーナー、豪華賞品が当たる大抽選会などで大いに賑わい、鳥海ダム調査事務所によるキーホルダーづくり、押し花体験のコーナーにも多くの親子連れが訪れました。

また、会場入り口のせせらぎパークでは魚のつかみ取り大会が行われ、参加した子供達は魚の素早い動きに悪戦苦闘しながらも、歓声を上げて楽しんでいました。



鳥海獅子まつり (8/16)

かがり火が灯された幻想的な雰囲気の中、『第31回鳥海獅子まつり』が鳥海町健康広場の特設ステージにて開催されました。

このまつりは各伝承団体の交流と文化継承を目的として昭和49年から始められ、各地で守り継がれている伝統の舞の競演に、毎年多くの観衆が魅了されています。

まつりの中で披露される獅子舞や番楽は『本海番楽』と呼ばれ、およそ380年前の江戸時代初期、京都の本海行人がこの地を訪れ、村々に番楽を伝授したものがはじまりと伝えられています。



原石山・ダムサイト予定地空中物理探査

7月26日と10月4日の2日間、鳥海町の百宅地域内にて、ヘリコプターによる空中物理探査が行われました。

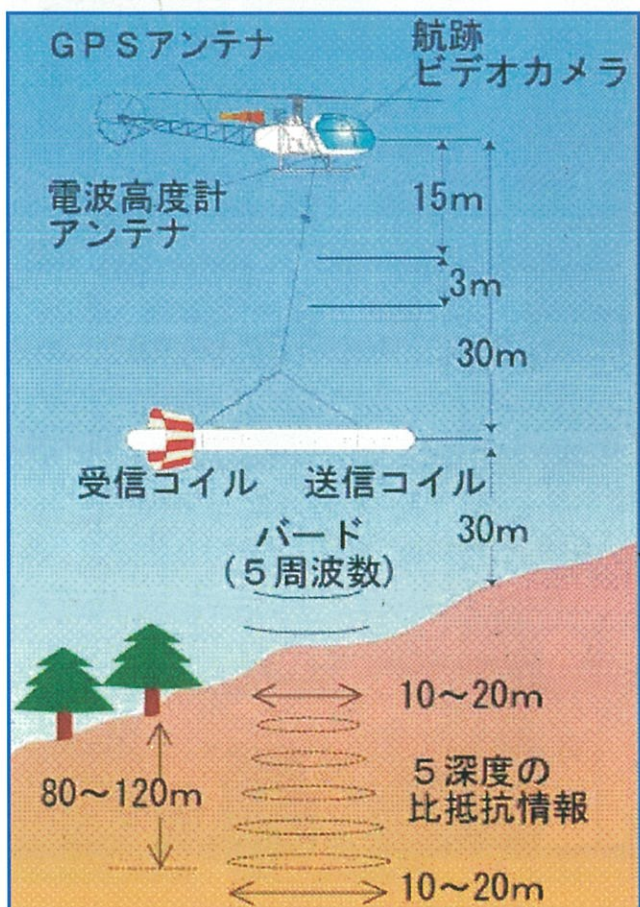
この調査では、ヘリコプターに吊した物理探査機から一定の周波数を地面に向かって放射することで、地表から約80～120m下までの地質状況などを調べることが出来ます。

7月の調査は原石山候補地、10月の調査ではダムサイト予定箇所についての探査が行われ、今後はこのデータを基にして、ダムサイトや原石山の正式な位置についての計画を進めていきます。



ヘリコプター調査飛行概要

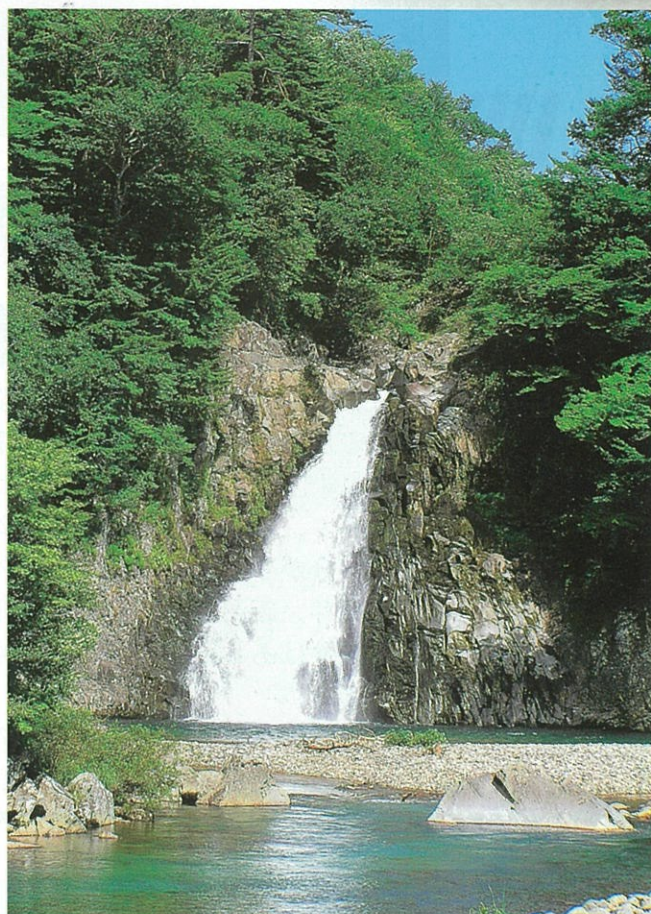
下記のような測定機器をつり下げて、地上約60m程度の上空を、時速30km～50kmで飛行します。



法体の滝 (夏)

前号では美しい虹が架かった春の法体の滝を掲載しましたが、今回は目に眩しい緑に囲まれた夏の法体の滝をご紹介します。

雪のために通行禁止となる冬場を除き、毎日多くの観光客が訪れる法体の滝ですが、夏休みの期間は遠方からの観光客や家族連れで特に賑わっているようです。



夏場は他の季節に比べると落水量が少なくなりますが、上流で雨が降ると水量が増し、更に豪快な姿が見られます。

夏季実習生

7月20日から8月2日までの間、鳥海ダム調査事務所にて高校生による職場実習が行われ、当所ダム事業における調査業務等を中心に様々な業務を体験しました。



- 氏名 遠藤 学
- 出身地 由利郡東由利町
- 出身校 秋田工業高等専門学校

《実習を終えてのコメント》

今回の実習では、実際の事務所での仕事や職場の雰囲気身近に体験でき、また、現場でのヘリコプターによる地質調査の見学など、貴重な経験もすることができました。

実習前までは、「国土交通省の仕事」と言われても具体的に分からなかった所もありましたが、実習を終えてみて、鳥海ダムのようなダム事業や道路・河川事業などの大規模な事業を取り扱っていることが分かり、とてもやりがいのある仕事だと思いました。

今年7月には、福井・新潟において集中豪雨によって洪水が起りましたが、同じことが子吉川でも起こる可能性はありますので、1日も早く鳥海ダム事業が実現するとういと思います。

色々と親切に教えて下さいました事務所のみなさん、本当にありがとうございました。今回の経験を、これからの学校生活や社会に出てから活かしていければと思います。

編集後記

今回は大内町長から巻頭言をご寄稿頂きました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

今号では、子吉川の源流調査や野外でのウォーキングスタディなどを中心に、夏に行われた行事をご紹介します。

さて、当鳥海ダム調査事務所は本荘市の道路整備計画に伴い、9月末から下記住所の新庁舎（旧農業会館）へ移転しました。

新しい環境となりましても職員が一丸となり、鳥海ダムの早期実現に向けて取り組んでいきますので、これからもどうぞ宜しくお願いいたします。

編集・発行

国土交通省東北地方整備局鳥海ダム調査事務所

〒015-0074 秋田県本荘市桜小路32-1 TEL.0184-23-5120 FAX.0184-23-5451

ホームページアドレス <http://www.thr.mlit.go.jp/chokai/> e-mailアドレス chokai@thr.mlit.go.jp